NISSAY ASSET MANAGEMENT

マーケットレポート　2022年6月6日

投資情報室

(審査確認番号 2022-TB58)

週間市場レポート (2022年5月30日～6月3日)

1）先週の市場動向

指数名	国	前週末 2022/5/27	先週末 2022/6/3	前週末比 (%)
日経平均株価（円）		26,781.68	27,761.57	3.66 ↗
ＴＯＰＩＸ（東証株価指数）		1,887.30	1,933.14	2.43 ↗
ダウ工業株30種平均（ドル）		33,212.96	32,899.70	▲ 0.94 ↘
Ｓ＆Ｐ500種指数		4,158.24	4,108.54	▲ 1.20 ↘
ナスダック総合指数		12,131.13	12,012.73	▲ 0.98 ↘
ユーロ・ストックス50指数		3,808.86	3,783.66	▲ 0.66 ↘
Ｓ＆Ｐ/ＡＳＸ300指数		7,168.37	7,222.00	0.75 ↗
上海総合指数		3,130.24	3,195.46	2.08 ↗
MSCI AC アジア（除く日本）※		839.38	854.62	1.82 ↗
東証ＲＥＩＴ指数		1,988.34	2,004.87	0.83 ↗
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		854.92	838.48	▲ 1.92 ↘
ＡＳＸ300 ＲＥＩＴ指数		1,483.10	1,485.00	0.13 ↗
グローバルＲＥＩＴ（除く日本）※		199.53	196.61	▲ 1.46 ↘
日本10年国債（%）		0.233	0.234	0.001 ↗
米国10年国債（%）		2.738	2.933	0.195 ↗
ドイツ10年国債（%）		0.963	1.273	0.310 ↗
英国10年国債（%）		1.917	2.155	0.238 ↗
ドル/円		127.11	130.88	2.97 ↗
ユーロ/円		136.45	140.29	2.81 ↗
英ポンド/円		160.45	163.43	1.86 ↗
豪ドル/円		91.02	94.31	3.62 ↗
フィラデルフィア半導体指数		3,115.35	3,062.59	▲ 1.69 ↘
ＷＴＩ原油先物（ドル）		115.07	118.87	3.30 ↗
ＣＲＢ指数		320.52	323.27	0.86 ↗

出所）ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

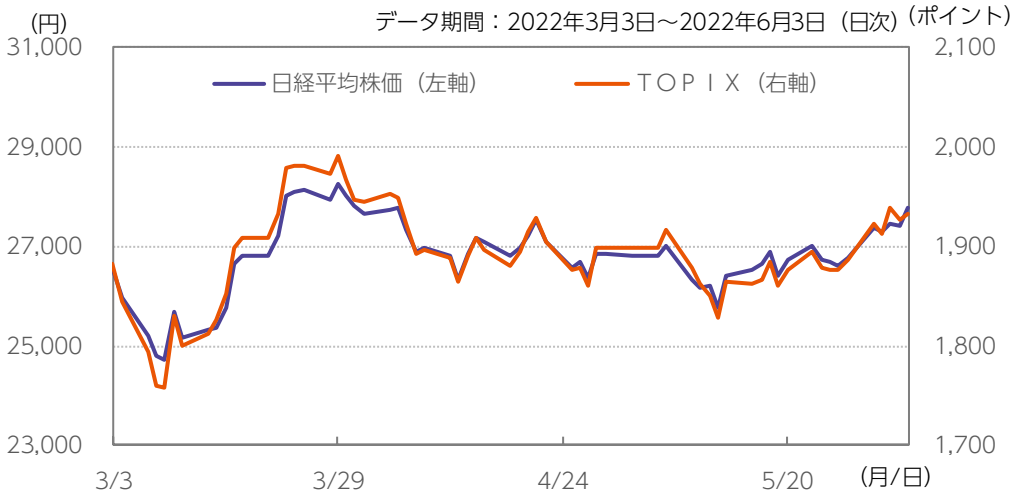
※現地通貨ベース　＊1 ▲はマイナスを表します。　＊2 中国は龍船節で休場のため、6月2日のデータ、英国はプラチナジュビリーで休場のため6月1日のデータを掲載。

2）日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で大幅に上昇しました。

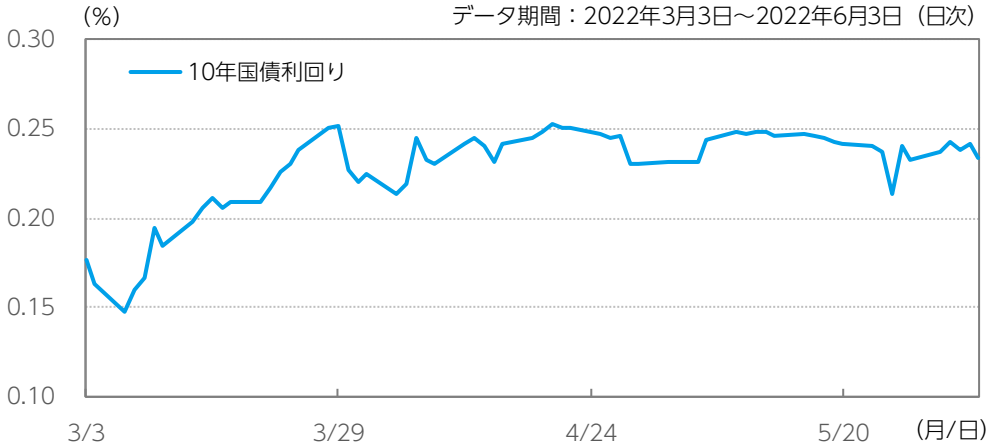
前週末に米国株式市場が上昇した流れを受け、週初は大幅に上昇し、4月21日以来、およそ1ヵ月ぶりの高値となりました。その後は、米連邦準備制度理事会（FRB）の積極的な金融引き締めへの警戒感から、一進一退となったものの、週末は、米民間雇用サービス会社が公表した雇用指標が市場予想を下回り、FRBの金融引き締め加速への懸念がやや和らいだことや、訪日外国人観光客の受け入れ再開にともなうインバウンド需要への期待などから上昇しました。



≪ 債券 ≫

日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。

米長期金利の上昇に連れて、国内金利への上昇圧力は強まっているものの、日銀は国債買い入れオペ（公開市場操作）で長期金利の上昇を抑える姿勢を維持していることから、持ち高を一方向に傾ける投資家は少なく、国内金利は週を通じて動きにくい展開となりました。

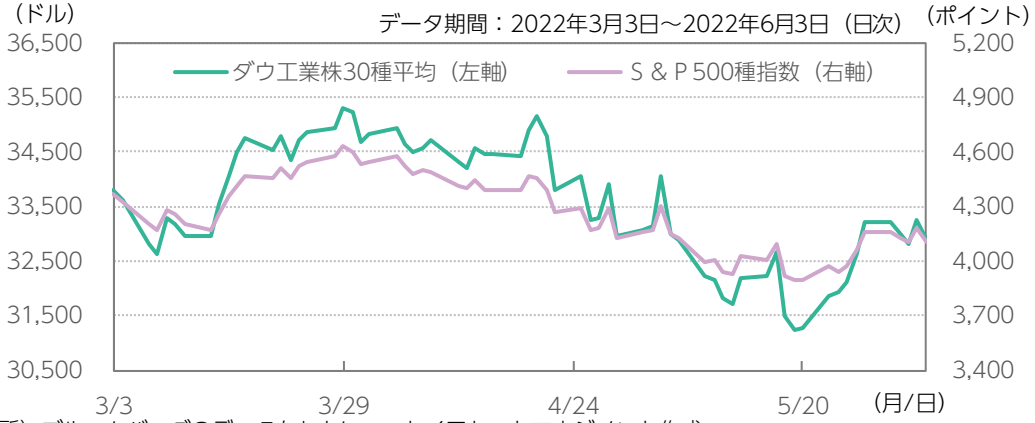


3）米国の株式市場

≪ 株式 ≫

米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で小幅に下落しました。

欧州連合（EU）のロシア産原油輸入禁止を受け原油価格が上昇し、インフレ加速への懸念が再び強まり、週初は7営業日ぶりに下落しました。前週まで6営業日上昇した反動で、その後も利益確定売りに押されたものの、米民間雇用サービス会社が公表した雇用指標が市場予想を下回ると3日ぶりに上昇しました。しかし週末は、5月の雇用統計で非農業部門雇用者数の増加幅が市場予想を上回り、FRBによる積極的な金融引き締めへの警戒が再び広がると下落しました。

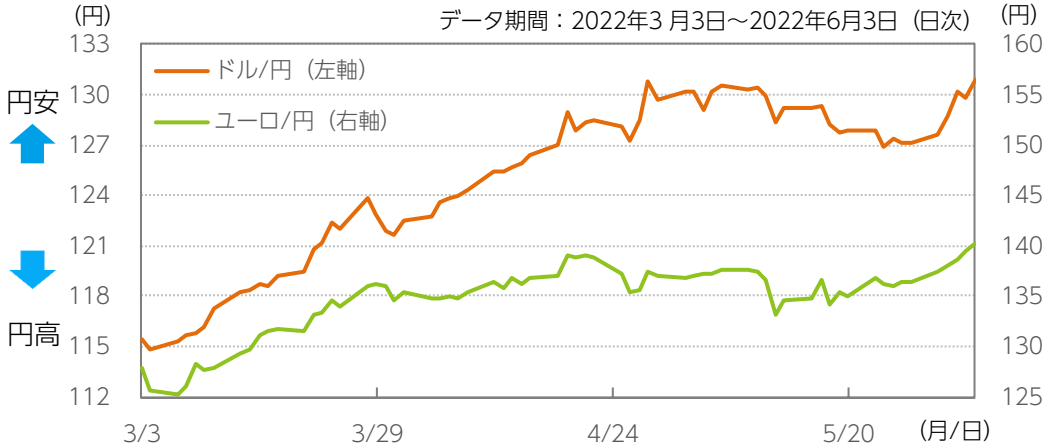


出所）ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4）外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で円安米ドル高となりました。

FRB高官が相次いで0.5%の利上げに積極姿勢を示したことから、日米金利差拡大を意識した円売り米ドル買いが進みました。急速に円安が進み、約2週間ぶりに130円台を付けたことから、利益確定目的の円買い米ドル売りが優勢となる場面もあったものの、週間では前週末比で円安米ドル高となりました。



5）今週の見通しについて

株式市場は、FRBによる急速な金融引き締めへ思惑をめぐり、一喜一憂する展開が続いています。

3日（金）に公表された5月の米雇用統計では、非農業部門雇用者数は前月比39万人と、増加幅は前月から鈍化したものの市場予想（31.8万人）を上回りました。足元では、宿泊・飲食などで、求人率が低下しており、人員削減や採用抑制の方針を示す企業もみられてます。今後、コロナ禍から経済活動の正常化へ向かう過程での過剰採用が抑制されることとなれば、雇用者数の伸びは減速していく可能性もありそうです。

今週は、9日（木）に欧州中央銀行（ECB）理事会が開催されます。ラガルド総裁は先日、7月および9月に0.25%の利上げの可能性を示唆しており、今会合でも、利上げペースや資産購入プログラム(APP)の終了時期についてより具体的に言及されるか注目されます。今週の株式市場は、ECBまでは様子見ムードから動きにくい展開が予想されます。ECBで大きなサプライズがなければ、買い安心感が広がり上昇するものと予想します。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

＜設定・運用＞

ニッセイアセットマネジメント株式会社

NISSAY ASSET MANAGEMENT

商 号 等：ニッセイアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者
関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社
コールセンター　0120-762-506
9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）
ホームページ　https://www.nam.co.jp/